

指揮界のカリスマ、ラトルを迎えて再始 動渾身のマーラー!

# サイモン・ラトル指揮 バイエルン放送交響楽団

Sir Simon Rattle Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks

バートウイスル:  
サイモンへの贈り物2018  
Harrison Birtwistle : Donum Simoni MMXVIII

マーラー:  
交響曲 第7番  
「夜の歌」

G.Mahler : Symphonie Nr.7 "Lied der Nacht"

愛知県芸術劇場コンサートホール

S¥42,000 A¥35,000 B¥28,000 C¥22,000 D¥16,000 E¥12,000 学生(抽選) ¥3,000 (税込)

学生券  
26歳以下学生証提示

中京テレビクリエーションHPよりエントリー後抽選。詳しくは<https://cte.jp/gakusei/>をご覧ください。  
【一般席と並ひてご購入されたい場合】公演1ヶ月前に残席がある場合に限り、並ひてご予約いただけます。  
詳しくは中京テレビクリエーションまでお問い合わせください。

子供支援  
チケット

(文化庁 劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業)  
小学生以上18歳以下のみなさまを無料ご招待いたします。※プログラムの都合上、高校生以上推奨。  
詳しくは<https://cte.jp/42cf/>の公演ページをご覧ください。

プレイガイド

Chuチケ:052-308-8282(平日11:00~17:00)

<https://cte.jp/42cf/>

チケットぴあ:<https://t.pia.jp/> (Pコード:268-125) 芸文プレイガイド:052-972-0430



2024.  
11.  
29 (金)

公演に関するお問い合わせ

中京テレビクリエーション ☎052-588-4477 (平日11:00~17:00)

18:45開演(18:00開場)



文化庁  
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan  
劇場・音楽堂等における  
子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

主催: CHUKYO TV

※出演者・曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

文化庁 子供文化芸術支援事業



ミュンヘンを本拠地に幅広いレパートリーを誇る凄腕集団、バイエルン放送交響楽団。

「第34回名古屋クラシックフェスティバル」での、惜しくも2019年に逝去した名匠マリス・ヤンソンス指揮による「アルプス交響曲」は“伝説”の名演として歴史に刻まれています。

'23/'24シーズンからは満を持して、サー・サイモン・ラトルが首席指揮者に就任!

名門ベルリン・フィルの音楽監督として一時代を築いた指揮界のカリスマが

名古屋クラシックフェスティバル初登場!

マーラーの交響曲第7番という、20世紀に書かれた交響曲のなかでもっとも成熟した精神と、精緻を極めた美学によって構成された傑作で、観客にその真価を問う!

## PROFILE



### サー・サイモン・ラトル

Sir Simon Rattle

納得のカリスマ性、優れた実験精神と熱意、そして妥協を許さない真摯な芸術性——これらすべてが、リヴァプール出身のサイモン・ラトルを、現代で最も魅力的な指揮者の一人にしている。2010年、サー・サイモン・ラトルはシューマンの《楽園とベリ》で初めてバイエルン放送合唱団及び交響楽団の指揮台に立った。それ以来、集中的なコラボレーションが展開され、ミュンヘンでの公演は常に目玉として注目されている。

2021年にラトルとバイエルン放送交響楽団は、2023/2024シーズンからラトルが首席指揮者に就任する契約を締結し、相思相愛による結束を果たした。こうして、ドイツのパスポートを持つ69歳のイギリス人は、昨年の9月、若い頃から憧れていたオーケストラを率いる立場となる。就任以前と変わらず、ラトルはラモー、バッハ、ハイドン、モーツァルトから近現代の音楽、古典の交響曲から演奏会形式によるオペラまでの幅広いレパートリーを披露しており、またBRSO(バイエルン放送交響楽団)でも“歴史的情報に基づく演奏(HIP)”という名のもと、古楽器による古楽の演奏も確立する予定である。さらに、ラトルは音楽教育にも情熱を注いでおり、BRSOアカデミーやバイエルン州立ユース・オーケストラとの野心的なプロジェクトは、バイエルンの金管アンサンブルをBRSOと共演させるイベント“Symphonic Hoagascht”と同様に彼にとっての優先事項である。

サー・サイモン・ラトルはバーミンガム市交響楽団でその素晴らしいキャリアを開始し、1980年から1998年にかけて同楽団を世界的な名声へと導いた。2002年から2018年までベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、2017年から2023年までロンドン交響楽団(LSO)の音楽監督を務め、同団とは今後も名誉指揮者として関係を維持していく。そのほかエイジ・オブ・インライトンメント管弦楽団のプリンシパル・アーティスト、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の第一客演指揮者、ほかウィーン・フィルやベルリン・シュターツカペレなどのトップ・オーケストラや、ロイヤル・オペラハウス、ベルリン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、そしてエクサンプロヴァンス音楽祭など著名なオペラハウスなどとも長年の関係を保持している。最近では、マーラー室内管弦楽団ともコラボレーションを行った。

これまでに数々の栄誉に輝いており、BRSOと録音したマーラーの「交響曲第9番」は、ディアハソン・ドール賞及びグラモフォン誌のエディタース・チョイスに選出され、マーラー「交響曲第6番」ではグラモフォン誌のエディタース・チョイス及びドイツ批評家賞を受賞している。



### バイエルン放送交響楽団

Symphonieorchester  
des Bayerischen Rundfunks

バイエルン放送交響楽団は、1949年にオイゲン・ヨッフムによって創設されて以来、瞬間に世界に名をとどろかすオーケストラへと発展した。その名声は、ラファエル・クーベリック、コリン・デイヴィス、ロリン・マゼールといった首席指揮者たちの功績により、さらに広く認められ、確実なものとなった。03年10月より、団員の圧倒的的支持によって選ばれたマリス・ヤンソンスが首席指揮者に就任。2019年に逝去するまでの16年間にわたり、極めて高い芸術的水準を維持しつつ、団員との親密な関係を創り出した。そしてサー・サイモン・ラトルが第6代首席指揮者に就任する2023/24シーズンにはさらに新しい時代が始まる。

創設以来の客演指揮者のリストには、エーリヒ・クライバー、カルロス・クライバー、オットー・クレンペラー、レナード・バースタイン、ゲオルク・ショルティ、カルロ・マリア・ジュリーニ、クルト・ザンデルリンクらが、より最近では、ベルナルト・ハイティンク、リッカルド・ムーティ、エサ=ベッカ・サロネン、ヘルベルト・ブロムシュテット、ダニエル・ハーディング、ヤニック・ネゼ=セガン、サイモン・ラトル、アンドリス・ネルソンスらが名を連ねている。